

平成26年度第7回「墨田区子ども・子育て会議」 「乳幼児ワーキンググループ」議事要旨

日時：平成26年7月29日（火）午後6時40分～8時25分
会場：墨田区役所131会議室

次第

1 開会

2 議題

| 議 題 | 資料No. |
|---|-----------------|
| (1) 私立幼稚園の子ども・子育て支援新制度への移行に関する意向調査について | 資料1 |
| (2) (仮称) 墨田区子ども・子育て支援事業計画に係る緊急調査について 【私立保育所・認証保育所・施設型小規模保育所】 | 資料2 |
| (3) 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込み、補正、確保策について | 資料3 と 資料7 |
| (4) その他 | 資料8 |

3 次回の予定

日 時：平成26年9月3日（水）午後6時30分～8時30分
会 場：すみだリバーサイドホール会議室
主な議題：教育・保育の提供体制の確保策ほか

4 閉会

配布資料

- 資料1 私立幼稚園の子ども・子育て支援新制度への移行に関する意向調査結果
- 資料2 (仮称) 墨田区子ども・子育て支援事業計画に係る緊急調査の回答結果について
- 資料3 量の見込みと確保策の検討（量の見込みの補正検討）＜教育・保育＞ 未確定
- 資料4 市町村子ども・子育て支援事業計画の作成に関する基本的記載事項（必須記載事項）
【国の資料抜粋】
- 資料5 教育・保育の確保イメージ（前回資料）
- 資料6 教育・保育の確保イメージ②
- 資料7 量の見込みと確保策の検討（量の見込みの補正検討）＜一時預かり・病児・病後児保育＞
未確定
- 資料8 墨田区次世代育成支援後期行動計画施策の体系ほか

出席者(敬称略)

○委員

長田 朋久 (横川さくら保育園長)
高嶋 景子 (田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科准教授)
西島 由美 (にしじま小児科院長)
財津 亜紀子 (文花子育てひろば施設長)
杉浦 浄澄 (江東学園幼稚園副園長)
佐藤 まり子 (ムーミン保育室施設長)
賀川 祐二 (NPO 法人 病児保育を作る会代表理事)
佐藤 摩耶子 (公募)
荘司 美幸 (公募)
多胡 晴子 (公募)
青塚 史子 (太平保育園長)

<欠席委員>

本多 美絵子 (両国幼稚園副園長)
貞松 成 (株式会社 global bridge 代表取締役)
徳野 奈穂子 (公募)
荒木 尚子 (緑幼稚園長)

<傍聴>

なし

○課長出席者

小倉 孝弘 (子育て支援課長)、鈴木 一郎 (子ども課長)、村田 里美 (子育て支援総合センター館長)

○事務局出席者(検討チーム含む)

浦辺・井場・遠藤・松本・杉崎・長山・水野・杉田・小川・田村・酒井

○事務局(株)地域総合計画研究所)

大鹿・佐々木

1 開会

| | |
|----|--|
| 委員 | 今日は、前回のワーキンググループ（以下、WG）の続きということで、始めたい。 |
|----|--|

2 議題

(1) 私立幼稚園の子ども・子育て支援新制度への移行に関する意向調査について

(2) (仮称)墨田区子ども・子育て支援事業計画に係る緊急調査について

| | |
|-----|---|
| 事務局 | (資料 1、資料 2 について説明) |
| 委員 | 現状でどのくらい増えるという数値はあるのか。また、どこかに新設して増えるのか。 |
| 事務局 | これらの数字は新たに作る園での想定人数であり、おおむね数十人単位で増えるところが多い。同じ場所で定員を増加させる園と、園を移設して定員を増加させる園がある。 |
| 委員 | 今までは認証保育所の人数を議論に入れてなかったのか。 |
| 事務局 | 認証保育所は全体の枠には入っているが、供給計画には入っていなかった。今までの認証保育所で定員増加があった時は、待機児童が減ることになるし、認可保育園になるのであれば、認可保育園としての枠が増えることになる。 |
| 委員 | 園で考えている最大限の定員規模を確認してもらい、その数値を表に入れてもらえれば、計画が見えやすくなると思う。 |
| 事務局 | 区の方でも認証保育所に認可保育園への移行の意向調査をしており、数値については入れていきたい。 |
| 委員 | これらの調査は私立の幼稚園と保育園であるが、公立の状況はどうなっているか。 |
| 事務局 | 保育園は改築の際に定員拡大をしている。幼稚園は、現状の園舎では面積の拡大が厳しく、小学校と併設の場合は、小学校でのクラス定員が減ることもあり、部屋が足りない状況にある。 |

(3) 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込み、補正、確保策について

| | |
|--------------|--|
| 事務局 (地域研) | (資料 3 について説明) |
| 委員 | 国の指示に沿った 3 号 0 歳児の補正について、いかがか。(特に意見なし) では、これで 0 歳児を補正する。 |
| 事務局 | (資料 7 について説明) 幼稚園による一時預かりについては、違う方策を考えたい。 |
| 委員 | 幼稚園による一時預かりの補正は、再度、行うのか。 |
| 事務局 (地域研) | 幼稚園による一時預かりの補正として、「日常的に祖父母等に見てもらえる」の約 25%を除き、約 75%の人とする考え方もある。 |
| 委員 | 75%の補正をかけることはいかがか。(特に意見なし) では、その数字で次回示してほしい。 一時預かり事業・子育て短期支援事業についてはいかがか。(特に意見なし) 病児病後児保育事業について、病児と病後児に分けて聞いていないため、病児を希望して |

| | |
|--------------|--|
| | いるかもしれない。 |
| 事務局 | 病児保育は病院に併設しないと難しく、単独では厳しい。 |
| 委員 | 現在の病後児保育の登録は 10%で、9 割が使っていない状況に対し、江戸川区の方は利用率が高くなっているが、この違いは何なのか。 |
| 委員 | これは利用意向率だろう。23 区内で病児病後児保育が充実している区では、人口 10 万人に対して利用数は 1,000 から 1,500 で、墨田区の人口だと 3,000 くらいとなる。また、キャンセル待ちは約 3 割で、実際のニーズを求めるために 1.3 倍すれば、4,000 から 5,000 となる。ただし、これは実績値からの数値であるが、現実的ではあるし、江戸川区の例を利用した数値が良いのではないか。 |
| 委員 | 江戸川区を利用した数値を採用することでよいか。(特に意見なし) では、江戸川区の例による数値とする。 |
| 事務局 | (墨田区訪問型保育支援事業の内訳を説明) |
| 事務局 (地域研) | (資料 4、資料 5、資料 6 について説明) |
| 委員 | 区のイメージは分かったが、実施にどうしていくのが問題である。 |
| 委員 | 認定こども園を 5 年間で 11 園作れるだろうか。私立幼稚園や私立保育園への調査に当てはめていくとどうなるかの検証が必要だろう。 |
| 事務局 | 合計で 4 園が認定こども園への意向の意思はあるが、より現実的な部分でどれくらい供給できるか、小規模保育なども合わせて検討していきたい。 |
| 委員 | 認証保育所の定員拡大については、資料のような意向を持っているということか。 |
| 事務局 | そうではあるが、不確定な部分もある。 |
| 委員 | 来年度は認可保育園が増えるが、その数字は入っているか。 |
| 事務局 (地域研) | 平成 26 年のところに、平成 27 年 4 月 1 日に供給が予定されている数字を入れている。 |
| 委員 | 幼稚園や保育園の意向を追跡調査し、おおよその数字を確保策に入れたものを示してもらえれば、精度の高い計画となるだろう。また、平成 27 年度の各整備は可能か。 |
| 事務局 | 手続きや整備等では、厳しい数字となっている。 |
| 委員 | 平成 27 年度の認定こども園はゼロからスタートが良いのではないか。 |
| 委員 | 認定こども園に行かせたいという意向があっても、認可保育園でも良いというようにフレキシブルに考え、現状の施設を最大限に活用した数字を詰めてもらうのはどうか。 |
| 事務局 | 実際の対応を考えれば、認可保育園に入園するという結果になると思う。 |
| 委員 | 一定程度はニーズに即さなければならないが、現実との乖離部分も補正していかなければならないだろう。一つの案として、モデルケースを組み直して考えてみたり、施設側の意向を取り入れてみたりして、表を作成してもらいたい。 |
| 委員 | 理想と現実を埋める際、区としてどうしたいのかが見えていない。区としての意思があれば、自分たちも意見が言えるため、次回、提案を出してほしい。 |

(4) その他

| | |
|-----|--------------------------------------|
| 事務局 | (資料 8 について説明) |
| 委員 | 次世代育成支援行動計画について、何か意見あるか。 (特に意見なし) |

3 次回の予定

| | |
|----|--|
| 委員 | 次回は 9 月 3 日 (火) に乳幼児 WG を行いたい。本日はこれで閉会とする。 |
|----|--|

以上